

太閤(背割)下水

▼太閤(背割)下水内部

太閤(背割)下水見学施設▶



◎大阪のまちづくりと下水道

大阪は、わが国最初の都市である難波宮以来、千数百年に及ぶ都市づくりの歴史を持っています。

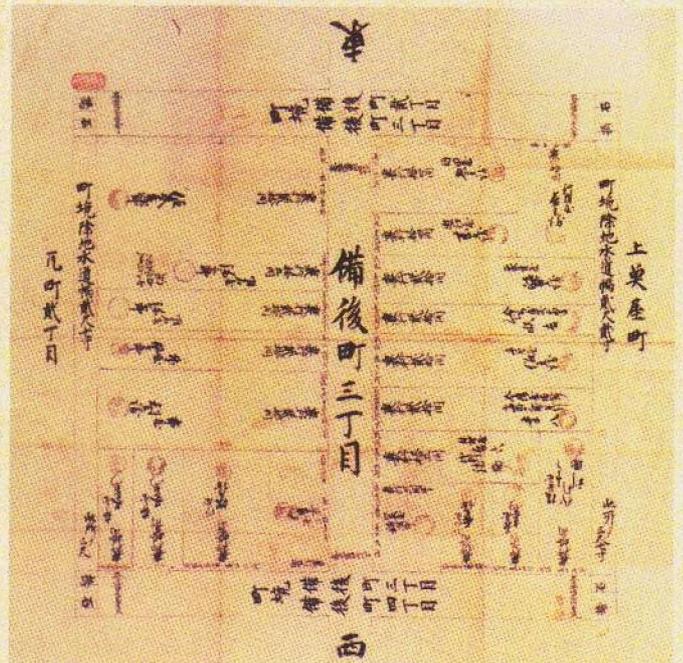
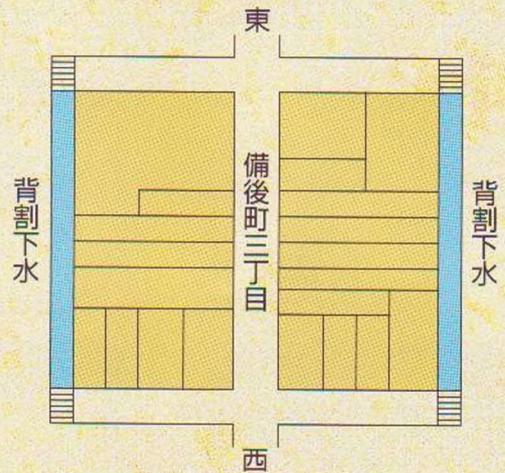
なかでも天正11年(1583年)から始まった豊臣秀吉の大阪城築城に伴うまちづくりでは、内町や船場地区(今の中央区)に現在の大阪の基礎となる町が形成されました。

このまちづくりでは、道路の整備と同時に、町屋から排出される下水を排除するための下水溝が建設されました。

道路と下水道を備えたまちづくりのアイディアは、わが国の都市計画の歴史において画期的なものとして高く評価されています。

大阪の町は、その後も江戸時代を通じて拡張・整備されていきますが、下水道も大阪に欠くことのできない基盤施設として、引き続き建設・改良が行われ、大阪市政が発足した明治22年(1889年)には、市内の下水溝の総延長はおよそ350キロメートルに及んでいました。

■町割と太閤(背割)下水模型図



■大阪市の地盤高図



◎近代下水道事業と太閤(背割)下水

明治に入ると、工業の発達、人口の増大など大阪市は一層の発展をみましたが、それに伴う都市施設の整備は著しく立ち遅れていました。

特に、明治19年(1886年)と23年(1890年)には、コレラの大流行により多数の犠牲者が出たため、上水道の創設、下水道の整備が強く求められました。

このため、明治25年(1892年)に上水道創設事業に着手すると共に、明治27年(1894年)12月には、最初の近代下水道事業である中央部下水道改良事業を開始しました。

この事業では、それまでの太閤(背割)下水の溝床にコンクリートを打ち、U字型とし、その表面にモルタルを上塗りして下水の流れがよくなるように改造するとともに、開渠であったものを石蓋で、暗渠(※)化しました。

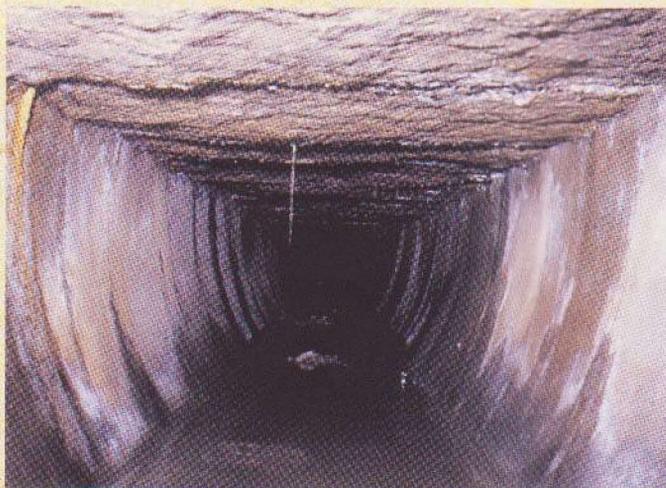
中央部改良事業は、総事業費104万円(当時の本市の単年度決算額の約6倍)を使い、市内約120キロメートルにわたって太閤(背割)下水の改良を行ないました。

先人の貴重な遺産である太閤(背割)下水は、こうした改良を加えて現在でも使用されており、その規模は中央区・西区などで約20キロメートルとなっています。

大阪市では明治以降も、下水道整備をつねに市政の重点施策として積極的に進め、今日では、市内のほぼ全域に下水道が普及しています。

※暗渠:上部に蓋がある、地下に設けるなど外から見えないようにした水路

■ 改良後の太閤(背割)下水



◎太閤(背割)下水の大阪市指定文化財への指定

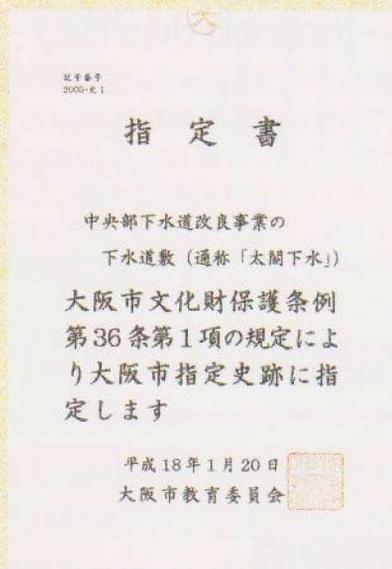
近世に造られた下水道が、改良されながらも現在まで使われ続けている事例は全国的に見てもほとんどなく、大阪の都市史を考える上でも貴重な資料です。このため、中央区・西区などで今も使われている太閤(背割)下水約20キロメートルのうち、将来にわたって保存が可能な約7キロメートルを「史跡」として平成17年度に大阪市の文化財に指定しました。

【名称】

中央部下水道改良事業の下水道敷 (通称:太閤下水)

詳しくは大阪市教育委員会事務局ホームページをご覧ください

■ 文化財の指定書



◎太閤(背割)下水の見学施設(南大江小学校西側)

中央区農人橋に現存する太閤(背割)下水は、元禄時代の古地図にも描かれているもので、付近の下水を地表の勾配に合わせて自然に流し、東横堀川に排水していました。(現在は、津守下水処理場に送って処理しています。)

この太閤(背割)下水は、内りりで幅・高さとも約2メートルあり、高さ7段、横2列にわたって石積みされています。明治の中央部下水道改良事業によって、改良が加えられ、現存する最大の太閤(背割)下水として、今日もその役割を果たしています。

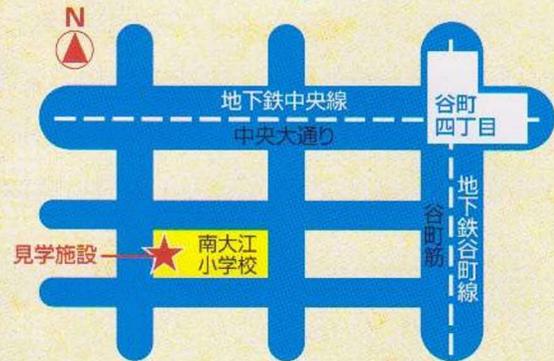
昭和60年4月には、市立南大江小学校(中央区農人橋1-3-3)西側に見学用施設を設置しましたが、平成17年度の本市文化財指定を契機として、より多くの方に見学していただけるよう平成18年度にリニューアル工事を実施しました。これにより、地下施設に入ることなく地上に設置したのぞき窓から内部の石組みを自由に見学することができるようになりました。

所在地

大阪市中央区農人橋1丁目3番3号
(市立南大江小学校 西側)

交通

地下鉄中央線・谷町線
「谷町四丁目駅」から徒歩5分



見学無料

なお、地下施設の見学は、
(一財)都市技術センターまで
お問い合わせください。

TEL 06-4963-2092
FAX 06-4963-2095



■ 見学用地上施設



■ 見学用地下施設



◎太閤秀吉と太閤(背割)下水

■ 太閤(背割)下水

豊臣秀吉の大阪のまちづくりにあたっては、土地が低湿であったため、堀川と呼ばれる人工の運河を開削し、そこから出た土砂を用いて土地のかさあげを行い、町屋の敷地としました。

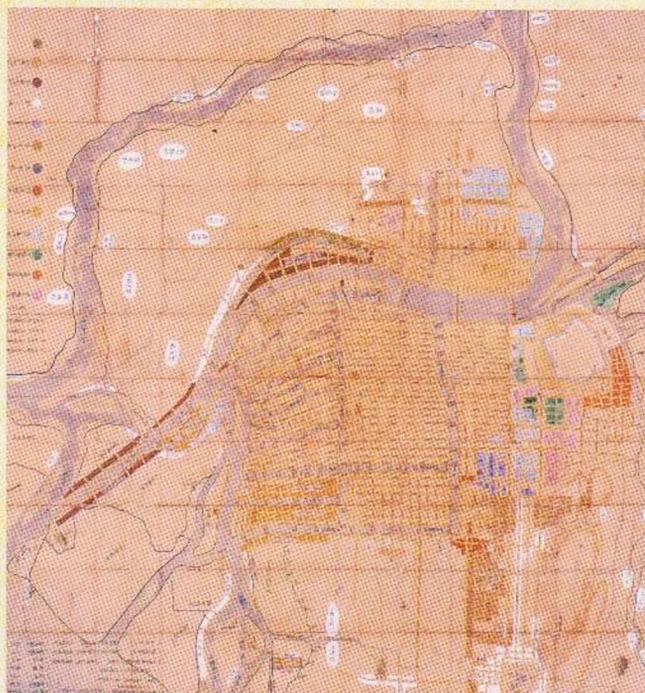
慶長3年(1598年)に整備された船場地区では、大阪城に向う東西路を軸に、碁盤の目状に整然と区画され、その道路に面して間口を持つ建物の裏側、すなわち建物が背中合わせになっているところに下水溝が作られていました。このように建物と建物の背を割って作られていたことから「背割下水(せわりげすい)」と呼ばれ、当時の船場地区は、この背割下水には含まれたほぼ42間(76.4m)四方の区画が町割りの基本となっていました。また、太閤秀吉にちなんで「太閤下水(たいこうげすい)」とも呼ばれています。

太閤(背割)下水は、通常幅1尺(30.3cm)から4尺(1.2m)、大きなものは1間(1.8m)から2間(3.6m)に及ぶものもあり、工法は、初期には素掘りのものでしたが、後には石垣で護岸が施されています。この下水溝は開渠(※)であったので、道路の横断部には石の蓋が置かれていました。

こうして、市中の下水は、太閤(背割)下水に集められ、おおむね東西の横堀川に排水されていました。

※開渠:上部に蓋のない水路のこと

■ 三郷町絵図(大阪城天守閣蔵)

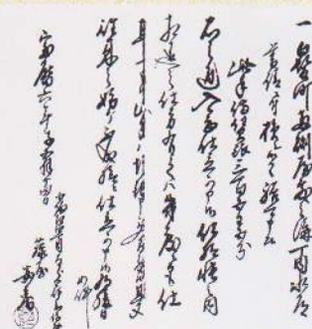


■ 太閤(背割)下水の維持管理

江戸時代には、できあがった下水溝の維持管理も各町内の町衆の手で行なわれていました。

下水溝の清掃は、「水道浚え(さらえ)」と呼ばれ、例年春から梅雨期までに、隣接する町が相談しあって日を決め、同時に行っていました。

また、下水溝の補修も町衆が寄って費用を出しあい行なっていたことが文献にも残されています。



■ 大水道普請入用帳

現存する太閤(背割)下水の築造時期について

中央区で実施した発掘調査により、現存する太閤(背割)下水の石組みが豊臣時代に遡るかどうかは確認されておきませんが、江戸時代後期に築造されたことは判明しています。

また、慶安1年から万治1年(1648~1658年)の「三郷町絵図」には、中央区南大江小学校付近に水路

が描かれており、江戸時代前期にはすでに水路が存在していたことがわかっています。

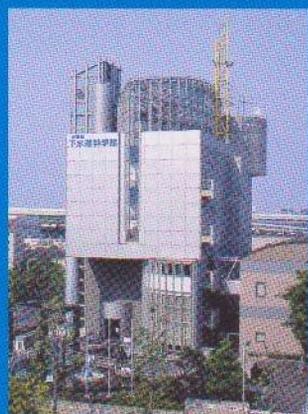
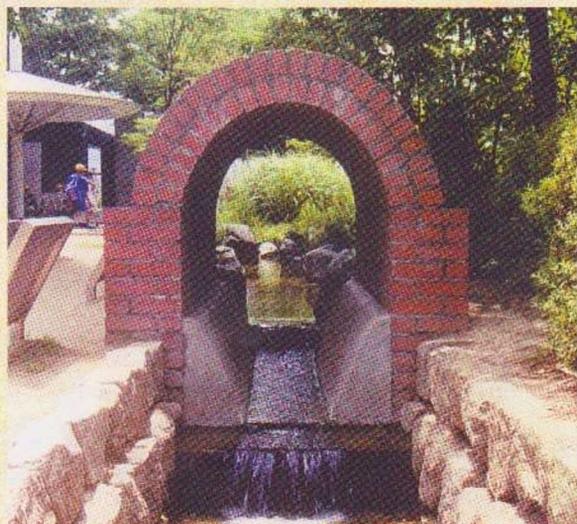
このことから江戸時代前期に素掘りの水路が掘られ、江戸時代後期に同じ位置に石組溝が築造されたと判断されています。

◎復元された太閤(背割)下水とレンガ積み下水道

下水道科学館に隣接する四季の庭には、太閤(背割)下水を移設して展示しています。展示しているのは、もと中央区淡路町5丁目と瓦町5丁目の町界にあったもので、両側に4段の御影石を積んだ深さ110cm、内幅90cmの中規模の太閤(背割)下水です。

また、レンガ積みの下水道は中央区谷町7丁目にあったものを復元したものです。

下水道科学館地下1階にあるマジックシアターでは、大阪市の下水道の歴史を紹介しており、そのなかで太閤(背割)下水を説明しています。



下水道科学館

大阪市此花区高見1丁目2番53号
TEL 06-6466-3170 / FAX 06-6466-3165

下水道科学館は、下水道の役割をできるだけ多くの人々に知っていただくことを目的に、大阪市の近代下水道事業着手100周年を記念して建設しました。さまざまな展示を楽しみながら、下水道のしくみと働きや大阪市の下水道の特徴を学んでいただける参加体験型の施設です。

開館時間 午前9時30分～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日等の場合は翌日)、
年末年始(12月28日～1月4日)

入館料 無料

交通 阪神電鉄「淀川」駅から徒歩約7分/ほか

下水道を大切に…市民のみなさんへおねがい

下水管へごみや油を流さず、 ディスポーザの使用はやめましょう

道路等に捨てられたごみは雨水により下水管に流れ、油を流すと下水管に付着して降雨時に洗い流され、ごみや油は川などに流れ出ます。また、ディスポーザ(注)で砕いて流した生ごみは晴天時に下水管にたまりやすく腐敗して悪臭の原因になるほか、降雨時には川などに流れ出ます。ごみや油を下水管に流さないようにしましょう。

(注)第三者評価機関等が認めた排水処理槽付きのディスポーザキッチン排水処理システム等は除く

ますや溝等を 清掃しましょう

ますや溝等には、落ち葉に、ごみ・砂など様々なものがたまっており、降雨時には、これらが雨に洗い流されて川などに流れ出ます。ますや溝等を日頃から清掃しましょう。

油類などを多く扱う 事業者の方へ

油類を多く扱う事業者の方は、油類が下水管へ流れ込まないように流出防止施設を設置しましょう。



大阪市建設局

〒559-0034 大阪市住之江区南港北2-1-10 ATC ITM棟6階
電話 06-6615-7586 FAX 06-6615-7690
ホームページアドレス <http://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/>